

2017年1月22日川越教会

神の救いとは

加藤 享

[聖書]マタイによる福音書9章18～26節

イエスがこのようなことを話しておられると、ある指導者がそばに来て、ひれ伏して言った。「わたしの娘がたったいま死にました。でも、おいでになって手を置いてやってください。そうすれば、生き返るでしょう。」そこで、イエスは立ち上がり、彼について行かれた。弟子たちも一緒だった。すると、そこへ十二年間も患って出血が続いている女が近寄って来て、後ろからイエスの服の房に触れた。「この方の服に触れさえすれば治してもらえる」と思ったからである。イエスは振り向いて、彼女を見ながら言われた。「娘よ、元気になるなさい。あなたの信仰があなたを救った。」そのとき、彼女は治った。イエスは指導者の家に行き、笛を吹く者たちや騒いでいる群衆を御覧になって言われた。「あちらへ行きなさい。少女は死んだのではない。眠っているのだ。」人々はイエスをあざ笑った。群衆を外に出すと、イエスは家の中に入り、少女の手をお取りになった。すると、少女は起き上がった。このうわさはその地方一帯に広まった。

[序] 聖書によって学ぶ

私たちは今朝も、救い主イエス・キリストを礼拝するために、集まって参りました。イエス・キリストは**どのような救い主なの**でしょうか。それは聖書を学ぶことで、神の救いの御業を知り、神が私たちにお送り下さったイエス・キリストを、自分の救い主と信じて、**その御心に聞き従って人生を生きていこう**という信仰を、与えられたからです。

今から2000年ほど前に、**イエス・キリスト**が、ユダヤの国でどのような生涯を送られたか、その**言葉と業、十字架の死と復活**という出来事を、弟子たちが直ちに人々に語り伝え始めました。そして、彼らが証した信仰が、世界に広まっていきました。その言葉が**文書化**され、**新約聖書27巻**にまとめられて、キリスト教会の正典として確立したのは、弟子たちが伝道を開始してから400年以上も後のことでした。

今日の聖書の記事は、我が子を病気で死なせた父親と12年間も病気で衰弱しきっている女性に、主イエスが**優しく対応して下さった**お話です。マタイ、マルコ、ルカ福音書がそれぞれ取り上げていますが、当然のことながら細かい所では、食い違っています。ですから三つの記事を読み比べて理解を深める必要があります。ではこの記事から私が学びとった**福音**を語らせていただきます。

[1] マタイとヤイロに示された愛

主イエスは収税所に座って働いている**マタイ**に声をかけられました。「**わたしに従いなさい**」するとマタイは立ち上がり、直ちに主に従ったのでした（9章9節）。ローマ帝国の支配の下にあったユダヤ人たちからは、収税所の役人はローマの手先とみなされて嫌われていたことでしょう。ところが主イエスがこの自分を弟子の一人に加えて下さった。これからの生活がどうなるのか不安はあるにしても、これまでの生活から抜け出すことが出来ることは、マタイにとっては、何とも言えない嬉しさです。早速自分の家に主をお迎えし、徴税人仲間や罪深い連中と軽蔑されている友人たちを呼び集めて、**喜びの宴会**を催しました。

当然のことながら宗教家のファリサイ派の人々から批難の聲が上がりました。すると主は答えられました。「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。——**わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである**」この言葉は、今の私たちの心にも、**深く響いてくる言葉**ですね。

するとそこへ、ある指導者がやって来てひれ伏して言いました。「わたしの娘が**たったいま死にました**。でも、おいでになって手を置いてやってください。そうすれば、生き返るでしょう。」当時の食事は、テーブルの前に片肘で横たわり、片手で食卓の食べ物を食べたようです。すると、体を横たえていた主は、すぐさま**立ち上がり**、彼について行かれたのでした。「**ある指導者**」とはマルコとルカ福音書によりますと、**会堂長**で名は**ヤイロ**と記されています。

地域の中心であるユダヤ教の教会堂を管理する責任者ですから、**地域の人々から尊敬されている有力者**に違いありません。その彼がマタイの家の宴会の食卓について居られた主イエスの傍らに**ひれ伏して**、懇願したのでした。マルコとルカ福音書では、「**死にそうです**」「**死にかけていた**」と記しています。でも主をお連れする途中で、長血で苦しむ女性と対応しているうちに、会堂長の家から**娘の死**の知らせが届きました。しかし主イエスは「**恐れることはない。ただ信じなさい**」とおっしゃって、ためらうことなく彼の家に向かわれました。

「死にそうだから、是非助けて下さい」と言うのと「死にました。でも、おいでになって手を置いてやってください。そうすれば、生き返るでしょう。」と願うのとでは、**根本的に違う**のではないのでしょうか。でも、間に合わずに死んでしまったという知らせに接した時、主は落ち着いておっしゃいました。「**恐**

れることはない。ただ信じなさい」主イエスは、「たった今死にました。でも」という願いも、「死にそうです。どうか」と言う願いも、**同じ願い**として受けとめておられますね。私はここに、**大きな驚き**を覚えました。

危篤状態でも、未だ生きているならば、**一縷の望み**があります。しかし死んでしまったならば、もう可能性は**ゼロ**。お出でいただいても**無駄**です。しかし主イエスは、どちらであっても**変わらぬ態度**で、ヤイロの家に行かれたのでした。彼の家では近所の人々も集まって、笛を吹き、泣き女が泣き叫ぶ**葬儀**が始まっていました。しかし主はその人々を家から追い出して娘の部屋に入り、「**タリタ クム**」(娘よ、**起きなさい**)とおっしゃり、彼女を起き上がらせてしまわれたのでした。

[2] 病苦に苦しむ女性への優しさ

さてこの会堂長の娘の癒しには、もう一つ 12 年間も出血が続いて**衰弱し切っている女性**の癒しの記事が結び付いています。彼女は主イエスの後から近寄って、主の衣服の裾についている房にそっと触れたのでした。この**房**はユダヤ人の男性の衣服の裾に青い紐で付けられている房です。その房を見る度に、神から与えられた**律法を思い起こし**、神に属する**聖なる者**にならなければとの**自覚を新たに**するためでした(民数記 15 : 38 ~ 40)。そのような房の付いた衣服を着て日常生活を送れとは、何と**厳しい教え**でしょうか。

主イエスは律法の中で**最も重要な掟**は何か?という質問に、「**心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛せよ**」「**隣人を自分のように愛しなさい**」と答えておられます(マタイ 22 : 34 ~ 40)。男は「全身全霊をこめて神を愛し、隣人を愛せよ」という神の御心を房に込めた衣服を着て日常生活を送れという信仰ですね。**厳しい信仰**です。それなのに、その衣服を着ながら、新しい人生の転機を喜ぶマタイの宴会を批難する宗教家たち。何と**情けない人たち**でしょうか。でもそれが私たち**人間の現実**なのですね。

さて永年の病気で衰弱しきった女性は、主の衣服の房、**神の律法のこめられた房**を、後からそっとつかみました。するとすぐに**出血が止まり**、病気の癒しを体で感じとりました。一方**主**は、自分の内から力が出て行くことに気付いて振り返り、「**わたしの服に触れたのはだれか**」と言われました。弟子たちは、「群衆があなたに押し迫っているのがお分かりでしょう」と答えました。しかしなお、あたりを見回す主に、**恐ろしくなった女性**は、震えながら進み出てすべてをありのまま話しました。きっと汚れた自分が聖なる方に触れて、汚れを移し

てしまったと思ったのでしょうか。しかし主は**優しく声をかけられた**のです。「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。**安心して**行きなさい。もうその病気にかからず、元気に暮らしなさい」(マルコ5：29～34)。

巢鴨の**とげぬき地藏**が大勢の参詣人を集めていて、有名です。本堂の前の地藏菩薩像(**洗い観音**)の体の、自分が病気の箇所と同じ個所を濡れたタオルで拭いたり、水をかけて祈願すると、**癒しをいただける**のだそうです。世界の各地にも、キリストやマリアの像に手で触れて祈る人がよくいるそうですね。主イエスの後から、主の衣の房にそっと触った女性も、そのような**おまじない的な信仰**の持ち主だったのでしょうか。

どうしてこの女性は、正面から主イエスにひれ伏して、お願いしなかったのでしょうか。その時、主イエスの傍らに居た会堂長は、**主の前に**ひれ伏してお願いしたのです。でもよく考えてみますと、彼女の病気は**血の流出**という律法でも**汚れ**と規定されているものでした。その汚れを他人に伝染させてはならず、人前に出ることを禁じられていました。12年間の長患いの医療費で財産も使い果していました。それでも何とか**助けをいただきたい**と切に願ったので、衰えた体に鞭打って、人混みの中、主の後からそっと衣服の房をつかんだのです。そして、彼女のその一握りに、主イエスは**さっと**反応して下さったのです。「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。**安心して**行きなさい。」なんと優しい主イエスでしょうか。

【結】 主イエスに現された神の愛

取税人だという劣等感に、心の晴れない人生を送って来たマタイに、**何のこだわり**も見せずに、声をかけて新しい人生の歩みを与えた主イエス。「娘が死んでしまいました。」と助けを懇願する会堂長に、**さっと立ち上がって**、一緒に家に行って下さる主イエス。汚れが移るから人前に出るなど言われている病弱な女性が、人目をさけて後からそっと房をつかんだその行為に、人混みのなかでも**さっと反応して**、癒して励まして下さる主イエス。そして死んだ娘を、**当たり前のように**、眠りから起こすようにして、生き返らせて下さった主イエス。

私たちの人生で生じる様々な悩み、苦しみ、悲しみに、**ためらうことなくさっと**応えて助けて下さる**愛の救い主**の姿が、浮き彫りにされています。そしてそこに、**愛の神ご自身のお姿**が現されているのです。何と嬉しいことでしょうか。このように愛の神を現わしておられる主イエスですから、**今生きている私たち**にも、語りかけて下さっているのです。「**求め続けなさい。そうすれば与**

えられる。探し続けなさい。そうすれば見つかる。門をたたき続けなさい。そうすれば開かれる。——**あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない。**」(マタイ7：7～11)

私たちは**人間**です。人と人との間で、即ち人々の間で交わりつつ生きている存在です。互いに愛し合って、**仲良く共に**生きていかなければなりません。そのためには、**愛の原動力**が必要です。今日の聖書の箇所を示されている、主イエスの**行動**を繰り返し読んで、心に刻みつけましょう。そしてこのお方を**救い主と信じて**、私の**心の中心**にお迎えいたしましょう。

先週も学んだ聖書の言葉を、今日もう一度お読みいたします。「わたしたちが神を愛したのではなく、**神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。**ここに愛があります。愛する者たち、**神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。**」(Iヨハネ4：10～11)

お祈りします：イエス・キリストの父なる神さま。互いに愛し合って生きていかなければならない私たちですのに、何と愛の貧しい者でしょうか。救い主イエスさま、どうか私の心をご支配下さい。あなたのように、人々の求めに、さっと立ち上がって行動する愛をお与え下さい。全能の父なる神さま、あなたには不可能はありません。どうかその御力を振るって、一人一人をお助け下さい。殺し合う戦いを治めて下さい。平和を打ち立てて下さいますように。救い主イエス・キリストの御名によって、祈ります。 アーメン